

3) 全国都市緑化フェアの開催について

次に全国都市緑化フェアの開催についてお尋ねいたします。

この質問は昨年の12月議会にて民主クラブ山際議員が取り上げておりますが、その山際議員、保守市民クラブ 皆川議員とともに、本年開催都市である横浜市を視察してまいりました。ご周知のとおり、都市緑化フェアにつきましては、平成10年に本市で開催されました。それを「もういちど」という声が挙がっているのです。

平成32年は広島、33年度は熊本がそれぞれ2回目、平成36年度は神奈川としては3回目、川崎市で開催が決定していますが、平成34年、35年が実は空いている。未だ手を挙げている自治体がないという状況です。

私はこの平成35年が空いているという状況に着目させていただきました。

平成35年、今から6年後となりますが、この年は新潟にとって、大変に重要な1年であると判断いたします。東京オリンピックの3年後、新潟駅周辺整備や中央環状道路などの大型プロジェクトがほぼ完了を迎えます。念願であった万代口と駅南が結ばれ、高架となった新潟駅を中心とした新たな交通体系も整備されているでしょう。

また、農業特区の指定は平成26年3月28日、35年3月でちょうど10周年になるのです。

インフラだけではありません。地方創生を掲げて行われた様々な施策、特にイベント、街並みの整備など、本市が今播いている種がちょうど花を咲かせている頃でしょう。

一方で不安もあります。

平成35年は東京オリンピックから3年後となります。景気はどうなっているのか。地方経済が冷え込まないためにも何らかのコンフル剤が必要な時なのではないでしょうか。

また、団塊の世代の方々がちょうど75歳前後になる頃でもあります。まだまだ元気なアクティブシニア層として新潟経済を支えていただかなければいけません。

生まれ変わった新潟駅も含め、新しい新潟のお披露目を準備しておくには格好の年になるのではないのでしょうか。

ちょっとイメージしてみました。前回の好評に味をしめ、再び未来のいにがたを妄想いたしますので、皆さま、目を閉じてお聞きください。

平成35年、次の、次の市長選、そして統一地方選挙が終わったあと、本県、本市の共催で開催を決定していた「全国都市緑化フェア IN にいがた」がいよいよ始まった。農業特区指定10周年イベントと併せての開催だ。

この開催に併せて、新潟駅の万代口公園広場の整備が急ピッチで進み、なんとかメイン会場としての準備が整った。新しい玄関口、新潟駅の再生を祝う一大イベントの開催である。このフェアの誘致のお陰で後世に残る素晴らしい駅前広場が整備できた。9年目を迎えたNGT48、ちょうど20周年を迎え、まだまだ元気な「ねぎっこ」がオープニングセレモニーを飾っている。

万代口広場をひととおり眺めたあと、鳥屋野潟会場へと向かう。

都市緑化フェアの開催は鳥屋野潟の整備促進にも繋がった。県、市が手を取り合って、まずは潟周辺の街歩きゾーンを整えた。

市民が憩える「鳥屋野潟の再生」がついに始まったのである。

連節バスも古町と長潟地区を結んで行ったり来たり。このフェアを飾る重要な役割を担っている。ついに古町と駅南地区がバスで結ばれたのである。今回初お目見えの「国産連節バス」に揺られて今回の第2会場、水辺リングへと向かった。

水辺リングも今年で8年目となる。店舗や街路の整備が進み、洗練された万代地区の顔としてすっかり定着している。今回はそこを花一面で埋めたのだ。万代橋の廻りは季節の花で埋め尽くされている。街中アウトドアではしゃぐ子どもたちを見守りながら、その美しい水辺の風景を堪能する。

今度はいがた食マップを片手に信濃川、新潟湊を歩きながら古町へと入っていく。今回のサブテーマは「食と緑と花と農そしてまち」飾られた緑と花に導かれて、ツアー参加者は古町の食文化や街並み、花街芸能などを堪能し、「新しい古町」の魅力を再発見する。

夜は白山地区へ。ライトアップされた花々の間を歩きながら芸文に向かい、新潟の芸術文化を堪能する。

また、新潟県の各都市も呼応した。都市緑化フェアに併せて県内公園や各市町村で様々な催しが開催された。国内外に向け、県、市が協同し、情報を発信した。世界遺産に指定された佐渡効果もあいまって、平成35年は、新潟が名実ともに観光都市としての仲間入りを果たした記念すべき1年となったのかもしれない。今日も、いがた市民は各々が花や緑で町を飾り、フェアを応援する

新潟が、新しい「全国都市緑化フェア」の可能性を示したのである。

如何でしたでしょうか。ちょっと色々なものを繋ぎすぎてしまったかもしれませんが、新潟の魅力を点でなく面で見せるためのフェアとしては緑と花は最高ではないでしょうか。

緑と花で食と農業とにいがた文化を繋ぐのです。皆さんが取り組んでいるイベントや施策を緑と花で繋ぐのです。纏めて発信するのです。事業スキームは色々と考えられると思いますが、私は本県と連携をし、このフェアの誘致を前に進めるべきだと判断いたします。

ちょっと先の話ですが、どこかが手をあげたらなくなってしまうので、のんびりしている場合ではないのです。そのことを踏まえて質問に入ります。

全国都市緑化フェアの誘致について、今の私の妄想を踏まえお答えください。

ア) 現在の取組み状況について

イ) 平成35年開催の意義について述べさせていただきましたが、その見解について

ウ) 新潟の魅力を繋ぎ、発信することに対する意義について

セレブリティミレニウム号が本市に寄港いたしました。用意されたパッケージツアーで多くの海外の方々が向かった場所、1位は五泉のチューリップだったそうです。ちなみに2位はキャッスル、新発田城だったそうです。ちょっとさみしいですが、海外の方も花一面は大

好きなのです。

このイベントならおそらく皆さんが応援するでしょう。是非土木部さんだけでなく、全庁で考えてみていただきたい。

是非、次の世代に繋がるものを残していただきたい。それをお伝えして次の質問に入ります。